

他力

— 住職便り —



第21号（令和二年五月）
専徳寺住職 弘中満雄

【みみをすます】

緊急事態宣言が発令され、はや三週間。人との接触が制限され、仕方なく一人家にいる時、次の詩を思い出しました。谷川 俊 太郎さんの「みみをすます」。1200字をこえる壮大な詩の一部です。

みみをすます

きのうのあまだれに みみをすます
みみをすます

いつから つづいてきたもしれぬ
ひとびとの あしおとに みみをすます
めをつむり みみをすます

みみをすます

じゅうねんまえの むすめの
すすりなきに みみをすます

じゅうまんねんまえの

こじかのなきこえに
ひやくまんねんまえの

しだのそよぎに
せんまんねんまえの なだれに

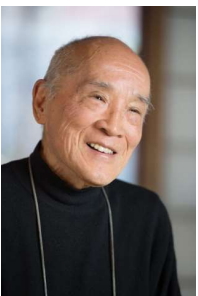
いちおくねんまえの
ほしのささやきに

いっちようねんまえの
うちゅうのとどろきに

みみをすます

きょうへとながれこむ あしたの
まだきこえない おがわのせせらぎに
みみをすます

（おわり）



谷川俊太郎
さん（88）

今から二十二年前、専徳寺で開かれた「音楽と詩の朗読の夕べ」みみをすます」で、ご本人が朗読されていました。

一人静かに耳をすませます。雨だれや人々のさまざまな足音に集中します。

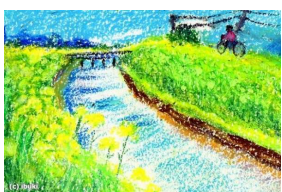
やがて目に見えないものが聞こえてきます。はるか昔の自分の産声、母の子守歌、父の心拍。

さらに時が加速します。十万年前の子鹿の鳴き声、千万年前の雪崩、一兆年前の宇宙の音まで耳に流れ込んできます。

そして未来の小川のせせらぎまで聞こえます。

音が、世界をいきいきと感じさせてくれる詩です。

皆さんは耳をすます時、何が聞こえますか？



【お朝事】

緊急事態でも、仏事はかわりません。毎朝の仏壇でのお勤め「お朝事」ですが、耳をすませば、同じ阿弥陀さまの教えを聞く者の声が。町内、また市内、さらには遠方でのお互いの称名に耳をすませます。とても嬉しい気持ちです。さらにお浄土で仏となられた故人の声、そして何よりも阿弥陀さまの救いの喚び声に耳をすませます。誰とも話さぬ一日だったとしても、今日も一人ではないのです。

年を取れば、だんだんと遠くなる耳。けれども心の耳はいよいよ鋭敏になっていくお念仏の生活を、お互い心がけたいものです。

事態が落ち着いたら、どうぞお参りください。皆さんのお寺です。またご一緒にお勤め、お聴聞いたしましょう。（終）